

テーマ:院内活動量のリアルタイム可視化

■ 背景

- 病院内のリハビリテーション施設内では熱心に指導を受けて頑張っている患者さんでも、その効果が現われにくい人がある。
- そのような患者さんは、実は部屋に戻ったら寝ているだけとか、普段の生活の中での活動量が低い傾向がある。しかし、その程度については、リアルタイムで数値化されることはなく、活動量計で後から分かる。
- これは退院されてからの生活態度にも関わることで、入院中でもリハビリを実施していない時の活動量を高めるために可視化する必要がある。



【リハビリテーション施設】

■ 現在の状況、対応方法

- リハビリテーション施設外での活動は、看護師等が観察して記録し、指導者はそれを見て判断し、次回以降の指導メニューを考える。
- 患者さんに活動量計を着けてもらい、その数値を見て普段の活動量を測定する。

■ 現在の課題

- 現状は、どんな方法でも「記録→解析→指導」という手順となり、リアルタイムで活動量は分からない。
- リアルタイムで活動量が分からないとリアルタイムの介入が出来ず、活動量を高めを保ち、退院後も継続できるように習慣化することができない。

■ 使用頻度や市場性(マーケットサイズ)

- リハビリテーション 機器全体の市場規模は、2014年の8,360.8百万ドル(9,197億円)から2016年の9,859.3 百万ドル(1 兆 845 億円)に増加している。2021年の市場規模は、2016 年から年率 8.6% で増加し、14,914.2 百万ドル(1 兆 6,406 億円)と予測されている。

出典:「平成29年度 特許出願技術動向調査報告書(概要)」
(特許庁平成30年2月)

■ 解決策案の例(イメージ図)



<出典:看護roo!>

機能アイデア例

- リハビリ施設外での活動量がリアルタイムで分かる機能
- 自然に身に付けられるようなデバイスで、活動量が測定できる機能

■ リハビリテーション部ホームページ

http://www.shiga-med.ac.jp/hospital/doc/department/central_clinic/rehabilitation_dep/index.html